

<胃がん検診>

◆市町の評価に関して◆

【調査項目】

①検診対象者、②受診者の情報管理、③要精検率の把握、④精検受診の有無の把握と受診勧奨、⑤精密検査結果の把握、⑥検診機関の委託に関する内容の37項目を調査対象としています。

また、胃がん検診の精度の指標「精検受診率」「受診率」「要精検率」「胃がん発見率」「陽性反応適中度」の5項目についても調査を行いました。

【評価方法】

市町から提出のあった調査項目への回答に基づいて、次の方法で評価しています。

A・・・「基準」をすべて満たしている

B・・・「基準」を一部満たしていない（1～9項目満たしていない）

C・・・「基準」を相当程度満たしていない（10～19項目満たしていない）

D・・・「基準」を大きく逸脱している（20項目以上満たしていない）

Z・・・回答がない

【評価結果】

*平成23年度実施分の市町別の評価は、下記のとおりです。

すでに1つの市で25年度から改善、さらに1つの市で26年度から改善する予定です。

胃がん検診精度管理調査結果(平成23年度 市町実施分)

	市町名	評価	備 考
1	金沢市	B	
2	七尾市	A	
3	小松市	A	
4	輪島市	B	
5	珠洲市	B	
6	加賀市	B	各指標を性別・年齢階級別に集計することで、平成26年度からは判定「A」となる予定です
7	羽咋市	B	
8	かほく市	B	
9	白山市	B	
10	能美市	B	検診機関の委託仕様書等を改訂し、平成25年度からは判定「A」となる予定です
11	川北町	A	
12	野々市町	集団 A 個別 B	
13	津幡町	B	
14	内灘町	B	
15	志賀町	A	
16	宝達志水町	B	
17	中能登町	A	
18	穴水町	B	
19	能登町	B	

評価	市町数
A	5
B	13
A・B	1

評価基準
 A : 「基準」をすべて満たしている
 B : 「基準」を一部満たしていない (1～9項目満たしていない)
 C : 「基準」を相当程度満たしていない (10～19項目満たしていない)
 D : 「基準」を大きく逸脱している (20項目以上満たしていない)
 Z : 回答がない

*胃がん検診の精度の5指標について

「精検受診率」は、「要精密検査」とされた方のうち、実際に精密検査を受けられた方の割合で、精度評価の最も重要な指標と位置付けられています。100%に近い方が望ましい指標で、目標値は90%、許容値は70%とされています。精検受診率が70%を下回することは望ましくないとされていますが、石川県では下回る市町は、ありませんでした。

「受診率」は、胃がん検診の対象の方のうち受診された方の割合です。対象者の算出方法は市町によっても相違があるため、厳密には正確な値でないこともあります。なるべく高いことが望ましいとされています。

「要精検率」は、受診された方のうち精密検査が必要とされた方の割合で、許容値は11.0%以下（受診者100人中、要精検が11人以下）とされています。

「胃がん発見率」は、受診された方のうち胃がんが発見された方の割合で、高ければ高い方が望ましい指標です。許容値は0.11%以上とされています。

「陽性反応適中度」は、検診で「要精密検査」とされた方のうち、実際に胃がんがあった方の割合で、許容値は1.0%以上とされています。

いくつかの指標で、許容値を外れている市町がありました。「精検受診率」は許容値を下回ることは良くないとされていますが、それ以外の指標は、人口構成による違いや継続受診者の比率などによっても大きな影響を受けるため、許容範囲外の場合、必ずしも問題があるとは言えません。また、「胃がん発見率」「陽性反応適中度」は、小さな自治体では年度による変動が大きいとされています。